

われもこつ 第15号

2003年5月27日 発行

軽井沢に嫁いで三〇年、
こどもたちとよくのぼった裏山は、
遠くまで見渡せました。
いつのまにか、木に囲まれて
何も見えなくなりました。

「ここからは浅間が良く見えたのに……」

「ツツジヶ原」、「アヤメヶ原」、

「ススキヶ原」、——そんな草原が

あったのを覚えています。でも……

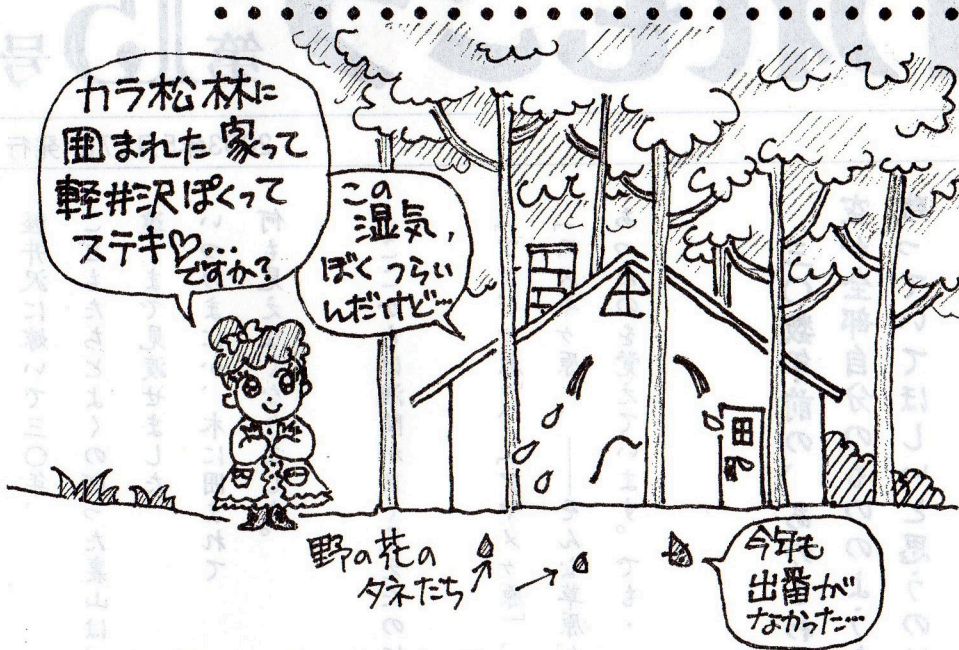
三〇数年前の、あのさわやかに風が吹き抜け、
空が全部自分のもののような、せいせいとした草原が
残っていてほしいと思うのはぜいたくでしょうか。

А.Н.



表土をたいせつに！

地面の下にはたくさんの方が眠っています

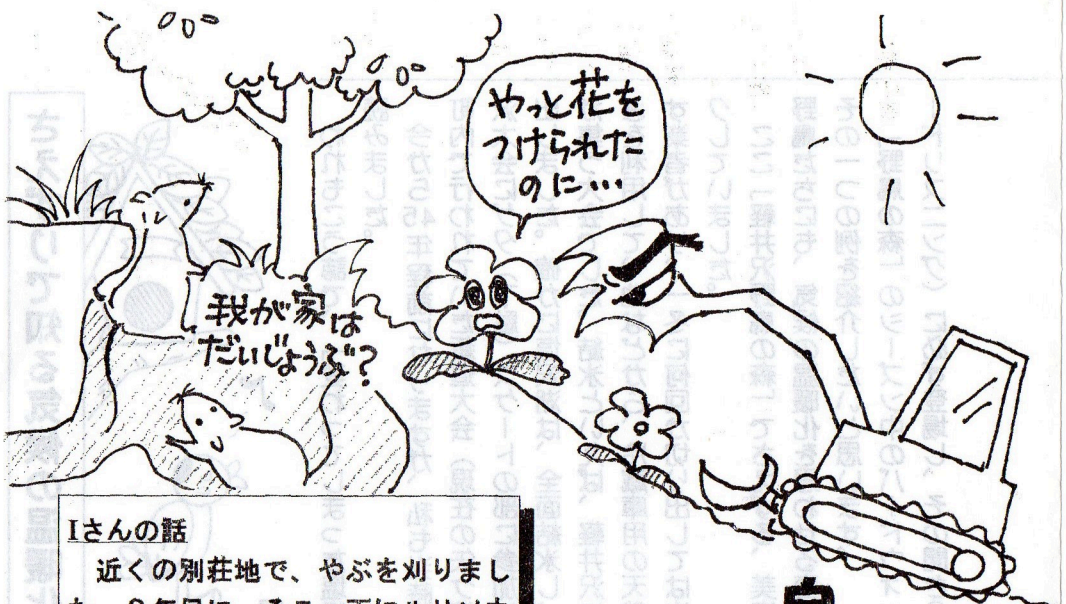


ただのカラマツ林だと思っても、表土の中には、人間がカラマツを植林するよりずっと前から生きてきた植物の花の種や根、株が眠っていたり、隠れているかもしれません。

軽井沢の土壌のなかに、色々な植物の種が「寝ている」可能性があります。このことを、学者は、「土壌シードバンク」——「土の中のタネ銀行」という意味です——と呼んでいます。

Gさんの話

カラマツと広葉樹の林の中にある別荘の庭の、カラマツだけを切りました。翌年、庭の広葉樹の下に、一面に、クサボケの花が咲き出して、びっくりしました。



Iさんの話

近くの別荘地で、やぶを刈りました。2年目に、そこ一面にルリソウが咲き乱れました。毎日通っている道なのに、今までこんなにたくさんのルリソウがあったことに気がつかなかったので、とても不思議に思いました。

Kさんの話

放置されていた別荘分譲地が、売り出しのために、きれいに下刈りされて、カラマツも間引かれました。暗い、じめじめした林だったのに、キツリフネ・ツリフネ・ソバナ・サクラソウなどが咲き出して、お花畑のようになりました。でも、残念なことに、あっという間に、たくさんの別荘が建ってしまって、ほとんどの花は無くなってしまいました。

自然はみんなのもの。

自然を壊してしまったら、もう誰も楽しめません。

軽井沢の自然は、大切な私たちの宝物。これ以上壊さないで、次の世代の子ども達に残しましょう。

〈われもこうの会〉

新築したり増築する時には、重機で不必要にたくさん、表面の土を掘り取ってしまったら、厚く客土したりのしないように、気をつけましょう。

さえずりで知る気候の温暖化



星野 裕一

われもこう誌で、「変わってしまった塩沢湖の冬」を読みました。

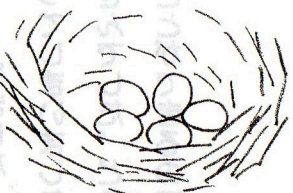
今から45年程前になりますが、私も当時小学児童で、町内で行われていた新道大会（現在の矢ヶ崎公園）、塩沢大会にゲタ（下駄）スケートの部に参加した事を思い出しました。確かに塩沢湖は、全面結氷し、町民の多くが集う大会でした。結氷といえば、軽井沢には昔から寒さを利用して、池などから、冷蔵庫用の天然氷を切り出す業者があり、一冬に何回か切り出しては氷室にストックしていました。

ここ「軽井沢野鳥の森」でさえずる、美声の持ち主の野鳥たちにも、気候の温暖化を思わせる変化があります。その一つの例を紹介したいと思います。

「野鳥の森」のシーズン中のバードウォッチング（バードリスティング）に必ず登場し、その聞き分けがとてもさて問題のノジコですが、「金からかみ金びょうび」と鳴くと言われ、日本の本州だけで繁殖する珍しい鳥です。

30数年前、野鳥に興味をもち始めた私は、ノジコの声を知りたいと思い鳥博士といわれた方にたずねたところ「ノジコはここ（野鳥の森）にはいない。湯川を下った軽井沢大橋（御代田）に行けば聞ける」と教わり、幸運にも初対面ができました。今では探鳥会の常連として、軽井沢野鳥の森の入り口付近でその美声を聞かせてくれているノジコですが、どうして軽井沢でもノジコが鳴き出したのでしょうか。

人間は暑ければ、扇風機やエアコンを使います。その点、鳥は、より良い環境を求めて移動する事ができます。湯川下流から上流へ、標高差約2000mの移動を試みた結果が野鳥の森で歌うノジコだったのです。



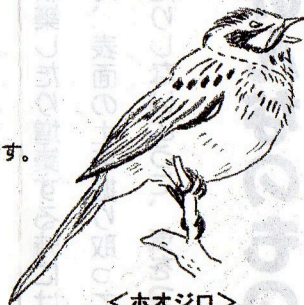
私たちが生活する軽井沢の人里は、本来多くの草花が咲き乱れるところですが、動物と違ってより良い環境を求めて移動する事ができない花たちにとって、良い環境がいつまでも守られ、また、つくられていくのを願っています。参考『鳥のおもしろ私生活』

難しい三種の鳥がいます。

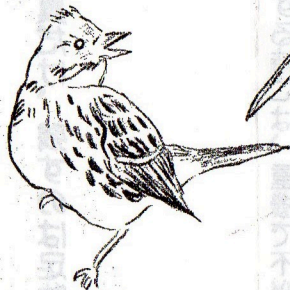
それは、ホオジロ、アオジ、ノジコです。さえずりがよく似ています。野鳥のさえずりを文字にするのは一般的には大変難しい事で、ウグイスが、ホーホケキヨ（法、法華経）と、見事に文字に表されたのは、春到来を告げる使者として歓迎される理由かもしれません。

ホオジロは、代表的な歌い方として、「一筆いっぴつ（啓上けいじょう）仕り候（つかまつりそうろう）」と歌っていると言われ、人家近くから山林にかけて一年中見かけるなじみ深い鳥です。

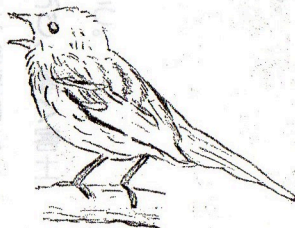
アオジは、浅間高原のカラマツ林に行けば、必ずその美声に出会えます。声の特徴は、少しこまぎれに、チッチョン ツピーチローチチコジー、とその姿は、木のとっぺんをよく見ると、意外に簡単に見つかります。この二つは昔から「軽井沢野鳥の森」の常連でした。



＜ホオジロ＞
栗色の羽で、目を横切る黒い線をはさんで肩と頬が白くはっきりと目立つ。



＜アオジ＞
お腹が黄色く鮮やか。黒っぽい模様のある鳥です。



＜ノジコ＞
声が美しく、アオジより黄色味が強く明るい色。

※アオジ、ノジコはホオジロの仲間です。

「自然を見つめる」

『自然を見つめる物語』全4巻

小野有五著 岩波書店
(産経児童出版文化賞受賞)



「森の黒土は一年間に何センチできると思う？」
0・05センチだよ」

おじさんは、僕とミカにやさしく語りかけます。

北海道と沖繩を舞台に、自然の素晴らしさと、それが失われる姿に出会いながら、おじさんと兄妹が旅をする物語です。はるか昔、山や川、海や森がどのような造られていったのか、教えてくれます。

木や草花、動物や鳥たち、小さな虫たちの生活を語る言葉には、一人一人の個性の大切さを知って欲しいという著者の思いがあふれています。特に第3巻『森の時間』は、軽井沢の住人に、おすすめです。(H)

Q

ハイキングをした時、フデリンドウを見つけた。あまりの可愛さに、持ってかえ

てしまいました。うま／＼育ちま

せんでした。どうしたら、育てる

ことができるのでしょうか？



A.

野山で、かわいい花を見つけた時、誰

でも自分の庭に移してしまいたいとい

う誘惑にかられることがあると思います。

でも、自然の厳しい条件の中で、子孫を残

したいと、やっこの思いで咲いている花にと

っては、「移植」はとても残酷なことです。花の時期

に移植されることは、人間で言えば、お産の最中にむ

りやり引越しをさせられるようなもので、大変残酷な

ことだと思います。また、たとえその花が元気にあな

野の花

Q&A

たの庭に育ててくれたとしても、その花があった場所の自然は、壊されてしまったことになります。

もっとも大切な点は、フデリンドウは二年草ですの

で、花の咲いている株を、どんなに注意深く移植した

としても、翌年には枯れてしまいます。移植で

痛手を受けた株は、種を付けることもできずに

死んでしまうことが多いのです。

二年草は、一年目に種から発芽して、翌年に

(条件が悪ければ翌々年に)花を付ける株に育

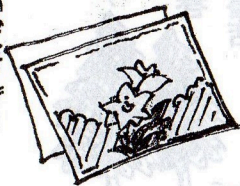
って初めて花が咲き、種をつけます。

もし、あなたがとらなければ、

あなたが感動したように、次に

通る人も感動することができるのです。

《とるのには写真だけ、残すのは足跡だけ》



チョッピリ勉強会の
おさそい

と き：6月29日(日)
午後2時30分～4時30分

ところ：中軽商工会館

テーマ：レッドデータブックって
なに？(仮)

……どの花が絶滅危惧種？……

講師：尾関雅章氏

長野県自然保護研究所 研究員

〈主催〉軽井沢サクラソウ会議
どなたでも参加できます。

おめでとうございます！

※※※※※※※※※※
われもこの会会員のMさんが
「趣味の園芸・花づくり大賞」の
「花を題材にした工芸部門」で準
大賞を受賞されました。出品作
は、パッチワークと刺しゅうの技
法で作ったイワシャジンの壁掛
け。ところで、Mさんて誰？・
・知りたいひとはNHK出版
『趣味の園芸』4月号、5月号を
ごらん下さい。



軽井沢サクラソウ会議 よりお知らせです

『軽井沢の花の思い出』大募集！

幼い日の遊び場所や学校の行き帰り、青春時代の
思い出の場所に咲いていた花の姿をあなたの言葉で
つづつてみませんか？ 皆さんの花の思い出を一冊
の本にまとめて子どもたちに伝えていきたいのです。
詳しくは、軽井沢サクラソウ会議製作(われもこ
うの会も協力しました)のパンフレット
『昔はこんなにすばらしかった！』を
ごらん下さい。

* 思い出の場所と年代、花の名前、
エピソードなど、300字程度に
まとめて下さい。

* 原稿が面倒な方には、こちらから
電話でお話を伺います。まずは
ご連絡を！

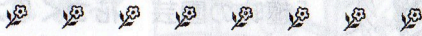
【原稿送付先】〒389-0111

軽井沢町長倉4388-8 百瀬まで

TEL/0267-45-2588 FAX/45-2586

今シーズンの活動が始まりました。
今後の予定は以下の通り。皆さん、

原っぱで会いましょう!



スケジュールと集合場所は

- 6月1日(日) 市村の原っぱ
- 18日(水) 畑(浅間大橋のたもと)
- 7月6日(日) 前沢の原っぱ[北]
- 16日(水) 畑(浅間大橋のたもと)
- 8月3日(日) 市村の原っぱ
- 9月7日(日) 前沢の原っぱ[北]
- 17日(水) 前沢の原っぱ[南]
- 10月5日(日) 畑(浅間大橋のたもと)
- 22日(水) 市村の原っぱ
- 11月9日(日) 前沢の原っぱ[北]

- * 集合時刻は午後1時30分
- ただし7月16日と8月3日は暑さ対策のため、
早朝作業、6時30分に集合してください。
- * 小雨決行
- * 持ち物: スコップや鎌、お茶タイム用カップ
- * 会員以外の方の参加も大歓迎です。



「われもこう」のバックナンバーが、
ホームページから見られるようになりました。
うぶ声をあげたばかりの頃からのわれ
もこうの会の懐かしの記録です。

<http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/>

★作業日誌も要チェック!

会員の皆さんへ

年会費の納入はお済みですか?
まだでしたら郵便振替が便利で
す。口座No. 00500-9-71948
口座名義 われもこうの会



われもこうの会
新会員も随時募集
しています!

植物や園芸の知識を活かし
たいひと、山野草の保護に
関心のあるひと、会の活動
を応援して下さいと、入
会をお待ちしております。

- ★年会費.....2,000円
- ★65歳以上及び
18歳未満の方...500円
- ★また、家族で加入され
る場合は2人めから500円
です。

◆◆◆編集後記◆◆◆ 近所に引
越してきた初対面の人と話をし
ていたら、「その話、図書館でも
らった『われもこう』に書いてあ
った話と同じですネ」と言われ、
大感激でした。『われもこう』は
読まれてるんだ!..... (I)

発行/われもこうの会 事務局 TEL.&FAX / 0267-46-2505